すまいる Smile

認知症の人を優しく支える社会に

Vol.131

八木　かおりさん
（今津町在住）

岩国市キャラバン・メイト連絡会会員。平成19年から認知症サポーター養成講座の講師活動を始める。認知症の理解者を増やし、本人や家族が悩みを抱え込まない地域づくりを目指している。

認知症を正しく理解し地域で暮らす認知症の人や家族を温かく見守る応援者「※認知症サポーター」を増やす活動をしているのは、八木かおりさんです。

八木さんは13年前、近所の人から認知症サポーター養成講座の講師にならないかと誘われました。親戚や親しい知人が認知症になったことや、民生委員として高齢者と関わる機会が多いことから、認知症に関心があった八木さんは講師になることを決めました。

認知症の種類や症状、対応の仕方などを学ぶうちに、昔の自分を思い出したそうです。「私が高校生の頃、認知症の祖母を両親がずっと介護していました。当時は介護保険制度もなく、祖母が認知症でなければ私たちはもっと違う暮らしができていたのではないかと思うこともありました。あの時に認知症について知識があったら、もっと祖母に優しくできたに違いない、と今でも思います」。

認知症サポーターの役割は、認知症の人や家族に共感を持って寄り添うことで、何か特別なことをするものではないと話す八木さん。講座では認知症の人に対応するときの良い例と悪い例を、笑いありの寸劇を交えて紹介するなど、楽しく学び共感してもらえるように講師の仲間と工夫しています。

子供たちにも認知症について知ってもらいたいと、小・中学校や高校の授業でも講座を行っています。「今の子供たちは、祖父母と同居していなかったり彼らがまだまだお元気だったりするので、実感がないかもしれません。でもこの知識が将来子供たちの役に立つと信じて、種をまくつもりで活動しています」。

現在は市民活動団体や企業など10人以上の団体を対象に講座を開催していますが、今後は家族単位など少人数で学び気軽に相談できる「お茶の間講座」の開催を考えているそうです。日々の生活の中で認知症の人に目を向けるきっかけを作り、みんなで支え合う優しい社会を目指してこれからも活動を続けていきたい、と話してくれました。

寸劇で認知症の人と話す家族役を演じる八木さん（左）。悪い例の家族の役をよく演じると話す

※認知症サポーター…自治体主催の認知症サポーター養成講座を受け、認知症を正しく理解し、地域で暮らす認知症の人や家族を温かく見守る応援者のこと。認知症サポーターには、認知症を支援する目印としてオレンジのブレスレット（オレンジリング）が渡される。

どの会場でも同じ内容の講座ができるように、ポスター形式の資料も用意している

講座では、認知症の人の尊厳を傷つけない声の掛け方などを紹介している